

繫離船作業について

船を岸壁につなぐ繫船作業、岸壁から放す離船作業とあわせて繫離船作業と言います。繫船作業では、繫船ボートで本船からロープを受け取り、繫船ボートから受け取ったロープを、岸壁上の作業員が順次係船柱にかけていきます。

繫離船作業は、本船の乗組員や作業員同士の連携と意思疎通が大事であり、熟練した作業員の瞬時の状況判断が必要です。また、巨大な船をつなぐロープは非常に重いですが、足場が悪い状況や悪天候のなかでも、迅速な作業が求められます。

一方、何らかの要因により繫留ロープが切断し、作業員に接触すると人命にも関わる可能性があります。(A港の事例：平成21年4月～平成26年3月の係留ロープの破断件数は90件。)

- 【写真】 写真1：本船よりロープを受け取る繫船ボート（東京港）
 写真2：係船柱にロープをかける作業（名古屋港）
 写真3：係船柱にロープをかける作業（神戸港）
 写真4：不安定な足場での繫船作業（函館港）
 写真5：吹雪の中での繫船作業（伏木富山港）
 写真6、7：劣悪な係留ロープ
 写真8、9：付属施設に絡んだ係留ロープ
 写真10：係留ロープが絡みにくい対策をした付属施設
 図11：係留ロープ切断事例
 （写真、図提供：日本繫離船協会）

写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



図11

